

東京都小学校国語教育研究会研究主題

他者と協働し、豊かな言語生活を実現する国語学習 —学びを通して身に付けた言葉の力を日常生活で生かそうとする—

書くこと部 研究主題

書くことのよさを実感できる単元づくりを目指して

第3学年国語科学習指導案

単元名 たから島の地図から始まる私のぼうけん ～〇〇〇〇が伝わる言葉を選んで物語を書こう～

学習材名「たから島のぼうけん」(光村出版3年下)

日時：令和7年11月20日(木)5校時

児童：小金井市立本町小学校 第3学年1組 34名

担任：小金井市立本町小学校 主任教諭 木村 千恵

指導者：小金井市立本町小学校 主任教諭 木村 千恵

1 単元の目標

- 様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増やし、語彙を豊かにすることができる。〔知識及び技能〕(1)オ
- 書く内容の中心を明確にして、文章の構成を考慮することができる。
〔思考力、判断力、表現力等〕(1)イ
- ◎自分の考えとその理由の関係を明確にして、書き表し方を工夫することができる。
〔思考力、判断力、表現力等〕(1)ウ
- 言葉のもつよさに気付くとともに、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。
〔学びに向かう力、人間性〕

2 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
①理由、様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増やし、語彙を豊かにしている。 (1)オ	①「書くこと」において、書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えている。(1)イ ②「書くこと」において、出来事や登場人物の気持ちや伝わるように理由を書き加えたりして書き表し方を工夫している。(1)ウ	① 物語を書くために、相手意識をもって話の内容や構成、書き表し方の工夫を考え、学習課題に沿って感じたことや考えたことを文章にまとめようとしている。

3 単元構想

(1) 児童について(児童観)

本学級の児童は「書くこと」における系統として、1学期に「小金井お仕事リーフレット」で情報の収集及び内容の検討に重点を置いた紹介文を書く学習に取り組んだ。地域・学校の中から自分の気になる働く人を選び、その仕事内容や工夫について本を読んだり、インターネットで検索したり、直接インタビューをしたりして取材したことをまとめている。どの児童も学習意欲が高く、自分の興味関心や課題意識に合わせて取り組む学習活動は、その高い意欲を継続させていた。また毎週のテーマ作文において、具体的なテーマに沿って観察報告

文や簡単な創作文などを書く経験を重ねることで、どんな内容で書くかを定める力を高めている。さらに読書に親しむ児童も多く、自分とは異なる世界を想像したり様々な情報に触れたりすることを楽しんでいる。

このように多様な活動を通して、書き慣れたり書くことを楽しんだりする児童が増えているが、言葉の意味や使い方を吟味して書き表し方を工夫することについては課題が見られる。例えば、2年生の既習である擬音語や比喩などの様子を表す言葉を意識して使っている児童は少ない。その背景には、自分の書きたい思いが先行し、書くことの目的や相手の意識、自分が一番伝えたいことが曖昧になってしまっている実態がある。そのため、独りよがりな文章になってしまいがちで、読んだ人からのよりよいフィードバックを得るのが難しく、結果的に書いてよかったという実感を得づらい状態にあると考える。

(2) 学習材について (学習材観)

本学習材は、1枚の絵地図に示された情報から想像を広げて物語を書くものである。

児童は、2年下巻「お話のさくしゃになろう」において語と語や文と文との続き方に注意しながら、はじめ・中・おわりのまとまりで作った創作文を書いている。また、3年下巻読むこと「三年とうげ」、書くこと「四まいの絵を使って」では、物語の基本的な構成(起承転結)を学んでいる。特に「四まいの絵を使って」では、書く内容の中心を明確にして文章の構成を考える中で、同じ絵を使っても様々な構成が考えられたり、その絵の解釈によって様々な出来事(事件)が生み出せたりするという面白さを感じていた。本単元では、それらの既習内容を生かし、記述を重点とした学習活動を計画した。

空想して物語を作ることは、幼い頃から自発的に経験している児童が多い。そのため、創作が好きな児童たちの自由な「作りたい」「書きたい」という意欲を喚起し、その意欲を継続させることが重要である。そこで、紙人形を操作したり、他者とやり取りしたりする活動を通して自分の発想が広がり楽しんで取り組むことができるように促す。そして、児童自身が自分の物語の内容や構成に愛着をもち、それを相手に伝わるようにどのように書き表し方を工夫していくかという課題意識を高められるようにしたい。

本来、創作活動は自由なものである。そのため個々が抱く思いを大切にしながら、学級の全児童に共通する本単元の学習のねらいを達成するために、発達の段階を考慮して同じ「たから島の地図」から物語で起こる出来事を想像することとした。また、たから島では2つの事件が起こる「起・承・転・承・転・結」の構成の文例を提示することで、1つの出来事を「はじめ、中、終わり」のまとまりを作って書いた2学年の創作文の学習の発展させた学習になるようにする。さらに主人公は、児童自身かまたは他者かを、目的意識をもって選択することとした。同じ「たから島の地図」を眺め、思いついたことを共有したり一緒に紙人形を操作したりすることで他者の発想に触れ、さらに膨らんだ自分の発想をどのような言葉で書くか、どう書き表し方を工夫すると自分の伝えたいことが伝わり相手がわくわくしながら読み進めてくれるかを考えながら、書いたり推敲したりできるようにしたい。

(3) 単元について (単元観)

本単元のゴールは、「たから島を冒険する〇〇〇〇物語を作り、友達やお家の方へ読み聞かせをすること」とした。たから島の地図を基に考えさせることで出来事を中心として物語を想像しやすくし、よいフィードバックを得やすい人を相手に設定することで、書いてよかったという満足感が高まるようにした。絵本のように清書せず、書いたものを加筆修正した文章を作品とし、それを地図と紙人形を用いて4年生に読み聞かせることを目的とすることで、全5時間の中で記述の力を高められるように考えた。本単元の目標「自分の考えとその理由の関係を明確にして、書き表し方を工夫することができる。」を達成するために、柔軟な学習過程かつ記述段階へ児童の意識が焦点化できるように単元を構成した。さらに、創作活動を楽しんだり、他者の視点をもって書いたりすることができるように、他者との対話の場を複数回設けた。

第一次では、児童はたから島の地図と出会い想像を膨らませるとともに、教師の文例の読み聞かせを聞く。2年生の創作文で学んだことや前単元「四まいの絵を使って」での既習事項を振り返らせるとともに、単元の学習計画を確かめて見通しをもつことができるようにする。さらに、〇〇〇〇物語の〇〇を各自が設定することで自分の学習課題(書く目的)を児童自身が選択して学ぶことを促す。

第二次、単元計画の2時間目から3時間目では、自分の冒険物語の出来事を具体的に想像し、主に情報の収集、内容及び構成の検討を行う。一人で、またはペアの児童と共にたから島の地図の上で紙人形を操作してやり取りをしながら考えたり、それを組み立てたりすることで、自分の考えをはっきりさせたり、広げたり、深めたりできるようにする。何と出会い、どんな事件が起きてどのように解決するのか、その順路や宝について、読書経験を想起し、他者の意見を参考にしながら想像を広げていく。その際、自分の学習課題や書きたい内容、書き進めるスピードに合わせて学習過程を行き来できるように、それぞれが調整しながら学び進めることができる時間を確保する。一斉指導の時間を少なくするが、文例の中の物語を書く時のポイントに気付き、どのように書き進めるかを考えながら、他者と対話したり、交流したりすることのよさについて児童それぞれが理解して進められるように留意する。

単元計画の4時間目から5時間目では、主に記述及び推敲を行う。4時間目は一斉指導を行い、悪い文例とよい文例を比較することで書き表し方の工夫に気付く。そして5時間目にかけて、その工夫を自分の文章に生かして書いたり、推敲して加筆修正したり、読み合って書き表し方のよさに気付いたりする。その後課外の共有の時間で、友達と互いに読み聞かせを聞いて感想を伝え合ったり、家族に作品を読んでコメントをもらったことで、書いてよかったという実感を得られるようにする。そして学校生活や日常生活の文章を書く場面において、自分の伝えたいことをはっきりさせ、相手に伝わる言葉を選んで書こうとする児童を育てる。

4 研究主題に迫るために

(1) 「言葉による見方・考え方」を働かせる学びをつくる

書くこと部では、「書くこと」の学習における「言葉による見方・考え方を働かせること」を、単元における言語活動を通して、課題を解決する際に育む言葉への自覚であると捉えた。

本単元においては、自分の物語の面白さが相手に伝わるように語彙や文に着目して言葉を吟味することを通して「言葉による見方」を十分に働かせ、言葉への知識・技能面の力を高める。また、自分が伝えたい出来事や登場人物の行動を見つめ、目的・相手意識をもちながら伝えたいことを明確にして書き表し方を工夫して表現することで「言葉による考え方」を働かせるようにする。そして、新たなアイデアや着眼点を得たり、物語の内容や構成を見直したり、関連する他のこととつなげて考えられたりするように促す。以下のような手だてを取ることで、この「言葉による見方」と「言葉による考え方」とを行き来しながら本単元の目標を達成することを目指す。

①書き表し方を工夫する必要感をもたせる

記述段階までに、自分の物語を十分に愛着をもったものにするのが重要である。物語の内容や構成について、友達と交流してそのよさに気付いたり、教師からの評価を受けたりすることで、自分の物語を友達や家族に楽しんでもらいたいと自信をもてるようにする。また、書き表し方が不十分な文例を読んだ読み手の反応を動画で見たり、書き表し方のよい文例を悪い文例と比較して考えさせたりし、書き表し方を工夫することで考えた物語の面白さが伝わり読む相手をわくわくさせることができると感じさせたい。

②他者との対話によって、自分が伝えたいことを見つめ、相手意識を高める

ペア児童とともに、地図の上で紙人形を操作して具体的に物語の出来事や登場人物の行動を想像する機会、必要に応じて書いた文章を読み合ったり共同推敲をしたりする場を設ける。ペアで一緒に考えることで、アイデアがつながり想像が広がるだけでなく、問い直したり感想を聞いたりすることで自分とは異なる立場の読み手を意識することができるように促す。

③言葉の宝箱を用いて語彙を豊かにする

様子を表す言葉（色、形、擬音語、擬態語、比喩等）及び人物を表す言葉（行動、気持ち、表情等）を集め、教室内に掲示したり、ノートに貼って手元でいつでも見られたりするように環境を整える。また、それらの言葉をテーマにして言葉集めをしたり作文を書いたりすることを長期的な〇次として取り組み、楽しみながらいろいろな言葉を知ったり、文章の中で使ったりする経験を増やす。

(2) 児童が（本単元において）身に付けたい力を意識し、自ら学びを進める。

本単元において「身に付けたい力を意識する」児童の姿とは、自分の物語の面白さを相手に伝えるためには、語彙や文に着目して言葉を吟味して記述する必要があると気づき、目的・相手意識をもって書き表し方を工夫する姿である。また「自ら学びを進める」児童の姿とは、単元のゴールや書くことの目的及び相手の意識をもち、自分の課題を解決するために読書経験を想起したり、他者との対話を参考にしたり、学習過程を行き来したりしながら書き進め、推敲して自分の物語をよりよくする姿である。以下のような手立てを取ることで、身に付けたい力や付けた力の活用を自覚的に行うことができるように促す。

①重点指導目標への意識を焦点化させる

5時間の単元計画のうち、一斉指導は1時間目と4時間目に行い、1時間目は本単元の学習の見通しを全体で確かめ、4時間目は重点指導目標に迫る時間とした。残りの時間は各々が自分の課題に向かって学びを進められるよう、文例の中の物語を書く時のポイントに気づき、どのように書き進めるかを考えながら学習を調整して取り組めるように工夫する。3年生になって本単元までに、情報の収集、内容の検討、構成の検討の学習過程を重点とした学習をしている。その学びの活用が容易になるように学級で交流したりワークシートを工夫したりすることで、重点指導目標である記述の段階に児童が全力で取り組むことができるようにする。具体的には、たから島の地図から想像した出来事を学級で出し合い1つの地図にまとめて共有し、物語の書き出しや展開が参考となる図書や児童のよい例を教室内に掲示する。また、はじめ・事件1・事件2・終わりに分けた構成シートを用いることで起承転結のまとまりを全児童が作るができるようにする。

さらに、書き表し方が不十分な文例を読んだ読み手の反応を動画で見たり、悪い文例をよりよくするやり取りを確かめたり

する。そうすることで、登場人物の行動や気持ちの理由、場面の様子や会話文などの書き表し方を工夫する必要を感じ、文例や言葉の宝箱を参考にしながら語彙や文に着目して表現を再考できるようにする。

②単元のゴールへ見通しをもって、調整しながら取り組むことができるようにする

単元の導入で、単元のゴールである読み聞かせを教師が例示し、文例を提示する。また、各自の学習課題やその時間の振り返りを記入する学習計画表を用いる。自分の学習の進捗状況が現在どの位置にあるのか、それを踏まえて次のめあては何にするかを可視化させることで、教師が児童の学習状況を把握するだけでなく、児童自身が次の時間への道しるべとなるようにする。さらに、観点ごとに色を変えた付箋をワークシートに貼ることで、教師が把握した学習状況や教師の評価を児童に気付かせ、自己調整しながら学べるように促す。

(3) 学習活動（言語活動）において、自らの考えをもち、多様な考えをもつ他者と関わり協働する中で、新たな考えをもつ。（考えを確かにする、広げる、高める、深める、などを含む）

創作文を書く本単元において自分の考えをもつとは、自分が伝えたいことをはっきりさせ、それをどのように表現すると読む相手ワクワクする物語を書くことができるかを考えることと捉えた。物語を読んだ相手が、驚いたり、楽しいと感じたり、続きが気になったりするような物語にしようと主体的に学び続けることができるようにするためには、相手と目的をどの学習過程でも常に意識して取り組むことが必要である。さらに友達と紙人形を地図上で操作しながらやり取りし、書いた文章を読み合い、その内容や表現の仕方について感想を述べ合うことで、自分の文章のよいところを見つけ、友達のよい書き表し方に気付かせたい。

それによって、自分の考えをはっきりさせたり、広げたり深めたりできるようにすることで、「書くこと」の学習における「言葉による見方・考え方」を働かせ、言葉への自覚を高められると考えている。さらに自分の中にあるアイデアや気持ちを創作文という自分だけの作品に表現すること、友達と協働することでより豊かにすることの楽しさを感じられるようにする。この実現のために、以下のような工夫を行う。

①目的意識、相手意識を常に意識して取り組む

まず、単元名の副題を児童自身が考えられるようにする。○○○○の中に、ワクワク、びっくり、にっこり、ぞくぞく、はらはらなどの言葉を考えることで、自分がどんな物語を作りたいか、相手がどう感じる物語を作りたいかという書く目的を明確にする。そうすることで、目的意識をもって選んだり検討したり書いたり推敲したりすることを促し、さらに目的意識をもって取り組んでいる児童の具体的な様子を学級で紹介して価値付けることで常に意識することができるようにする。

また、1時間目に読んでもらう相手として家族や4年生を具体的に捉えられるようにする。自分の書きたいことだけでなくその相手に伝わるか、どのように感じるかを意識して、伝わるような書き表し方を工夫するように促す。また、以下②に述べる他者との対話によって、異なる立場である友達の印象や感想を参考に考えられるようにする。

②友達との対話のよさを感じる

友達とのペア対話は、2、3時間目はたから島の地図を用いて、4、5時間目は書いた文章を用いて行う。

まず地図を用いて一緒に紙人形を動かしながらやり取りすることで、物語を想像することを十分に楽しめるようにする。友達とのやり取りで他者の視点に触れ、新たなアイデアと関連させて考えを広げることで、友達と交流するよさに気付くようにする。また、相手に自分が考えていることを伝えてからやり取りすることで、その内容が相手に認められる経験をし、自分が伝えたいことをはっきりさせていく。さらに、友達からの「なぜ?」「どうつながるの?」と問い直されたことに答えることで、登場人物の行動の理由や展開のつながりなどを詳しくし、自分の考えを高められるようにしたい。

また、書いた文章を共同推敲する場を設ける。自分でよりよい言葉を選んで加筆修正するだけでなく、読み手の視点をもった友達の印象や感想を聞き、一緒に問い直すことで、着目すべき言葉に気付いて書き表し方をよりよくすることを促す。

(4) 獲得した言葉の力を日常生活に活用し、言語生活を豊かにする。

本単元において「獲得した言葉の力」とは、自分の伝えたいことをはっきりさせ、相手に伝わるように書き表し方を工夫する力である。

書く活動は、メモしたり、考えを整理して再構築したり、日記に記したりと自分へ相手意識をもって書く場面もあるが、手紙、紹介文、観察・報告文、提案文や意見文などでは、読む相手を意識して書くことが重要である。読む相手の立場に立って、語彙や文に着目して適切な言葉を選んだり、伝わるかを推敲したりすることで、より他者とつながることができるように考える。友達への感謝の手紙、家族へのお願いを記した提案文、学校での係活動の紹介文や卒業文集など、相手に伝わるように書き表し方を工夫することで、自分の思いを形にしたり、相手と共感したり、知識や経験などを伝えたり、読んだ人を幸せにするなどの言葉のもつよさをより感じることができると考える。

5 単元計画（全5時間）

過程(次)	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準 評価方法	
○次		◇言葉の宝箱 言葉の習得及び語彙を増やす ◇テーマ作文 書くことに慣れる 言葉に着目して考え、語彙を文章の中で使う ◇学級文庫の充実 物語に触れる機会を増やし、魅力的な物語に出会う ◇読み聞かせ 内容や挿絵から想像を広げたり、展開を楽しんだりする機会を増やす 書き出しや描写の優れた作品に触れる			
第一次 題材の設定と計画	1	1 たから島の地図から出来事を想像する。 ●どんな生き物や場所があるかな。 ●どんな物語を読んだかな。 2 教師が作成した文例の読み聞かせを聞き、単元のゴールを確かめ、活動への見通しをもつ。	○宝島の地図が届いた設定にすることで、地図を中心として想像を広げやすくする。 ○たから島の地図の上で紙人形を動かしながら読み聞かせをする。		
		単元名 「たから島の地図から始まる私のぼうけん」 ゴール たから島を冒険する○○物語を作り、4年生やお家の方へ読み聞かせをする。			
		3 学習計画を確かめ、自分の書く目的や学習課題を考える。 ・わくわく、びっくり、やさしい、ぞくぞく、はらはら、ドキドキ 4 出てくる登場人物と手に入れる宝を考え、メモする。 ●名前、得意なことを考えよう。 ●どんな宝を得られたら嬉しいかな。 5 本時の学習を振り返る。	○どんな物語にしたいか副題の○○の言葉を自分で設定できるようにする ○短文で、内容ごとに付箋を変えるように、メモの仕方を確かめる。 ○振り返りの書き方を例示し、具体的に考えられるようにする。		
第二次 情報の収集・構成の検討・記	2 3	1 前時にたから島の地図から想像したことを確かめる。 2 文例を読み、物語を考える際のポイントに気付き、自分の文章に生かそうとする。	○学級で1枚のたからの地図にまとめて掲示する。 ○各自が見付けたポイントは、2、3時間目に確かにしていくものと捉え、学級全体では3時間目に共有する。		
		・はじめ、中、おわりの構成で書かれていて、事件が2つ起きている。 ・お話の中心は「中1」で、へびから逃げる事件が山場になっている。 ・たから島の地図の道順で出来事が起こり、つながっている。 ・登場人物と事件、得られた宝につながりがある。			
		たから島で起こる出来事を ペアで話し合って考えよう。 3 たから島の地図の上で紙人形を動かしながら、書きたい情報を集める。 ●どんな事件が起こるかな。 ●どの道順で行くかな。 4 たから島の地図に思いついたことや話したこと等を付箋にメモする。 ・くしゃみが止まらない火の鳥を助	○ペアで共に学ぶよさを確かめる。 ○自分一人で考えたりペア児童と対話をして考えたりする。 ○児童の状況に合わせて対話のモデルを教師が実演して具体的に示した	(思考・判断・表現① 観察・発言・記述 「書くこと」において、書く内容を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えているかの確認。	

<p>述・推敲</p>	<p>けたら、仲良くなって宝がある場所まで背中に乗せてくれた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さそりに追いかけられるけど、かくれんぼが上手なぼくはピラミッドに上手に隠れて助かった。 ・図書館から借りた本にたから島の地図がはさまっていた。 ・ぼくの宝は、走るのが速くなる靴だ。 <p>5 必要な情報を選び、物語の内容を決め、物語シートを作る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読む人をびっくりさせたいから、戦わずに仲間になる展開にしよう。 ・友達もほしくなるような宝にしよう。 <p>6 物語シートを友達と一緒に見て、内容や展開を確かめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・たしかに、わにが虫歯なんて意外だし、抜いてあげて仲良くなる展開には納得するな。 ・シロクマと戦ってどうやって勝つのか、もっと詳しく知りたいな。 ・どうしてくじらが助けてくれたのか、一緒に考えよう。 <p>7 本時の学習を振り返り、次時の自分のめあてを書く。</p>	<p>り、付箋の書き方を例示したりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○観点ごとに色を変えた付箋を児童のワークシートに貼ることで、教師が把握した学習状況や教師の評価を児童に気付かせる。 ○文例を用いて、登場人物や宝とのつながりを示す。 ○はじめ、事件1、事件2、おわりに分かれている物語シートに記入することで、内容のまとまりやつながりのある構成を考えられるようにする。 ○児童の対話の様子を録画し、必要性を感じた児童が動画視聴をして確かめられるように環境を整える。 ○進度の早い児童は、記述シートに書き始めたり、書いた文章を読み返したりできるようにする。 ○「構成の検討」までは全ての児童が終えているようにする。 	<p>※2、3時間目で1つの評価を行う。</p>
<p>4 本時</p>	<p>1 文例を読んだ読み手の反応等の動画を見て、課題意識をもつ。</p>	<p>○書き表し方の工夫が不足している文例を読んだ人が問い返すやり取り動画を視聴し、記述の際に気を付ける事柄について考えさせる。</p>	<p>(知識・理解) 観察・発言・記述 理由、様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増やし、語彙を豊かにしているかの確認。</p>
<p>読んだ人に伝わるように、言葉をつけくわえて文章を書こう。</p>	<p>○各自が見付けた工夫は、4、5時間目に確かにしていくものと捉え、学級全体では5時間目に共有する。</p>		
<p>2 不足した文例とよい文例を比較して書き表し方の工夫を見付ける。</p>	<p>・登場人物の行動や気持ちの理由を書く。 ・出来事が目にうかぶように書く。(色、形、音、状態、比喻) ・登場人物の気持ちを書く。(会話文、行動、表情)</p>	<p>○既習内容を振り返り、自分の一番伝えたいまとまりにしぼって書き表</p>	<p>(思考・判断・表現②) 観察・発言・記述 「書くこと」において、出来事や登場人物の気持ちの理由が伝わるように、書き表し方を工夫しているかの確認。</p>
<p>3 書き表し方を工夫して書く。※1 ①書き進める児童 ②一人で書いた文章を読み返し、加</p>	<p>○既習内容を振り返り、自分の一番伝えたいまとまりにしぼって書き表</p>		

		<p>筆修正したり、学習過程を戻って取り組んだりする児童</p> <p>③交流スペースで書いた文章を読み合い、互いのよさに気付いたり、加筆修正したりする児童</p> <p>④言葉の宝箱や参考図書の掲示を読んで語彙を増やしたり、動画を見て付け加える言葉ややり取りの仕方を確かめたりする児童</p> <p>4本時の学びを振り返る。</p>	<p>し方を工夫することに気付くようにする。</p> <p>○物語の書き出しや展開が参考となる図書や児童のよい例の教室内に掲示する。</p> <p>○25分～30分程度の記述する時間を設け、自己調整しながら学べるように促す。</p>	<p>(主体的に学習に取り組む態度①)</p> <p><u>観察・発言・記述</u></p> <p>物語を書くために、相手意識をもって話の内容や構成、書き表し方の工夫を考え、学習課題に沿って感じたことや考えたことを文章にまとめようとしているかの確認。</p>
	5	<p>1書き表し方の工夫を確かめる。</p> <p>・登場人物の行動や気持ちの理由を書く。</p> <p>・出来事が目にうかぶように書く。(色、形、音、状態、比喻)</p> <p>・登場人物の気持ちを書く。(会話文、行動、表情)</p>	<p>○前時の児童のよい文章を示し、3つの書き表し方の工夫を具体的に捉えられるようにする。</p>	<p>※4、5時間目で3つの評価を行う。</p>
		<p>書き表し方を工夫して書き、友達と読み合ってよりよくしよう。</p>		
		<p>2書き表し方を工夫して書く。</p> <p>※1(4時間目と同様)</p> <p>3書いた文章を読み返す。</p> <p>・一人で推敲したり、共同推敲したりする。</p>	<p>○推敲の観点や読み合う際のやり取り例を具体的に板書する。</p>	
		<p>・句読点、漢字、主語・述語の関係を正しく用いて書いているか。</p> <p>・登場人物の行動や気持ちの理由を書いているか。</p> <p>・出来事の様子が分かる言葉をつかって書いているか。</p> <p>・登場人物の気持ちの分かる言葉をつかって書いているか。</p>		
		<p>4ペア児童と読み合い感想を伝え合うことで、自分の書き表し方のよさに気付く。</p> <p>●書き表し方のよさ</p> <p>●物語の内容の面白さ</p> <p>5本単元の学びを振り返り、身に付けた力を自覚する。</p>	<p>○読んだ人の感想を知ることで、達成感をもたせる。</p> <p>○自分の学習課題、書き表し方に関して振り返ることができるようにする。</p>	
第三次共有	課外	<p>1書いた文章を友達や家族と読み合い、感想を伝え合うことで、自分の書き表し方の工夫に気付く。</p>	<p>○対話したり、感想を書き合ったりして伝え合えるようにする。</p>	
実の場		<p>◆学級や学年で作品を読み合い、いろいろな人と感想を伝え合う。</p> <p>◆廊下に作品を掲示し、多くの人に読んでもらえるようにする。</p> <p>◆家で読み聞かせし、保護者から感想をもらう。</p> <p>◆4年生への1対1の読み聞かせ会を開き、作った物語の感想を聞く。</p> <p>◆単元終了後も、書くことや伝え合うこと、本を読むことを楽しんでいく。</p> <p>「言葉のたから箱」「テーマ作文」「読み聞かせ」</p>		

6 本時の学習（4/5）

(1) 本時のねらい

考えた物語の出来事の様子や登場人物の気持ちが伝わるように、書き表し方を工夫して書くことができる。

(2) 本時の展開

学 習 活 動	指導上の留意点	評価規準 評価方法
<p>1 文例を読んだ読み手の反応等の動画を見て、課題意識をもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・物語の展開がつかない。 ・出来事の様子がよく分からない。 ・登場人物の気持ちが分からない。 	<p>○文例（書き表し方の工夫が不足している）を読んだ人が問い返すやり取り動画を視聴し、記述の際に気を付ける事柄について考えられるようにする。</p>	<p>（知識・理解） <u>観察・発言・記述</u> 理由、様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増やし、語彙を豊かにしているかの確認。</p>
<p>2 不足した文例とよい文例を比較して書き表し方の工夫を見付ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理由があると、お話のつながりが分かる ・詳しくする言葉があると分かりやすい。 ・会話文は、自分の文章にも付け加えられそう。 	<p>○よい文例の書き表し方の工夫を分類して板書することで、児童が自分の文章に生かすことができるようにする。</p>	<p>（思考・判断・表現②） <u>観察・発言・記述</u> 「書くこと」において、出来事や登場人物の気持ちが伝わるように理由を書き加えたりして、書き表し方を工夫しているのかの確認。</p>
<p>3 気付いた書き表し方を生かして、文章を書く。</p> <p>①書き進める児童</p> <p>②一人で書いた文章を読み返し、加筆修正したり、学習過程を戻って取り組んだりする児童</p> <p>③交流スペースで書いた文章を読み合い、互いのよさに気付いたり、加筆修正したりする児童</p> <p>④言葉の宝箱や参考図書の掲示を読んで語彙を増やしたり、導入の動画を見て付け加える言葉ややり取りの仕方を確かめたりする児童</p>	<p>○既習内容を振り返ることで、一番伝えたいまとまりにしぼって書き表し方を工夫できるようにする。</p> <p>○自分の立てた副題を意識できるように促す。</p> <p>○25分～30分程度の記述する時間を設け、自己調整しながら学べるように促す。</p> <p>○教室内で左記の③④の場所を分け、やり取り例や推敲の観点をその場に示す。</p> <p>○加筆修正の際の跡が残るように記入することで、学習調整したことを可視化する。</p> <p>○目的意識、相手意識をもって取り組む児童の文章ややり取りを板書し、その良さを確かめる。</p> <p>○自分のめあてについて達成できたかどうか、具体的に考えられるようにする。</p>	<p>（主体的に学習に取り組む態度①） <u>観察・発言・記述</u> 物語を書くために、相手意識をもって話の内容や構成、書き表し方の工夫を考え学習課題に沿って感じたことや考えたことを文章にまとめようとしているかの確認。</p>
<p>4 本時の学びを振り返る。</p>		<p>〔言葉による見方・考え方を働かせている児童の姿〕 ・自分が伝えたい出来事や登場人物の行動を見つめ、相手意識をもちながら語彙や文に着目して言葉を吟味して書こうとしている。</p>

7 資料

- 1) 文例
- 2) やりとり例の動画台本（本時の導入で用いるもの）
- 3) ワークシート（振り返り、取材、物語、記述、感想シート）
- 4) 板書
- 5) 児童作品

芽衣と理奈の大ぼうけん

木村千恵

ある日、親友の理奈と芽衣は図書館に出かけた。すると、芽衣の読もうとした本に、「たから島の地図」がはさまっていた。芽衣は理奈をよんだ。よばれた理奈がその地図にふれると、二人のすがたはきえてしまった。

気がつくとき、そこは森の中だった。目の前に大きいへびが見えた。二人は走って逃げた。へびは二人をおいかけてきた。芽衣は走るのをやめた。けれど、理奈が芽衣の手を引っぱった。二人は、木々の間をジグザグに走ることにした。もう、へびは追いかけてこなかった。ふり返ると、自分の体が木とからまって動けないへびの姿が見えた。二人は笑い合った。

その後、二人はたから箱のある火山に向かって進んでいった。途中で道がと切れていたけれど、思い切りジャンプしたら飛びこえられた。

やっと火山に着いた。根元にたから箱を見つけた。たからは、黄金のしおりだった。二人がそのしおりにふれたとたん、いつもの図書館にもどっていた。

(全三九一文字)

文例②（本時で用いるもの）

芽衣と理奈の大ぼうけん

木村千恵

ある日、親友の理奈と芽衣は図書館に出かけた。すると、芽衣の読もうとした本に、「たから島の地図」がはさまっていた。芽衣は、びっくりしたので理奈をよんだ。よばれた理奈がその地図にふれると、二人のすがたはきえてしまった。

気がつくと、そこは森の中だった。目の前には本町小のろうかよりずっと長いへびが、のぞきこむように二人を見つめていた。

「芽衣、今すぐ逃げよう。」

と理奈が言ったので、二人で森の奥へと風のように走って逃げた。それでも、むらさき色の体をくねらせて追いかけてくるへび。転んでしまった芽衣は、「もうだめ」と思ったので走るのをやめた。けれどその時、

「いいこと思いついた。だいじょうぶ、私についてきて。」

と理奈が言って芽衣の手を引っぱった。芽衣もグッドアイデアだと思ったので、二人は木々の間をジグザグに走ることにした。

「あれ、おかしいぞ。体がからまって動けない。」

ふり返ると、自分の体と木でかた結びしているへびの姿が見えた。二人はほっとしたので、顔を見合わせて笑い合った。

その後、二人はたから箱のある火山に向かって進んでいった。途中で道がと切れていたけれど、思い切りジャンプしたら飛びこえられた。

やっと火山に着いた。根元にたから箱を見つけた。たからは、黄金のしおりだった。二人がそのしおりにふれたとたん、いつもの図書館にもどっていた。

（全五六五文字）

二) やりとり例の動画台本

作者	私のお話、読んでくれた？
読者	うん。おもしろかったよ。へびが、自分の体でかた結びしちゃうところが、いいね。でも、ちょっと分かりにくいところがあったかな。
作者	えっ。どこ？
読者	理奈と芽衣の二人がへびに追いかけられたところ。 「芽衣が走るのをやめた」と書いてあるのだけど、なんで逃げるのを止めたの？ 逃げなきゃへびにつかまると思うんだけど・・・。
作者	ああ。それは、芽衣が転んじゃったの。だから「もう、だめ。」と思って、逃げるのをあきらめたってこと。
読者	じゃあ、理奈が手を引っ張ったのは？
作者	それは、思いついたからに決まっているじゃない。へびを森の木でからませれば、にげられるっていいアイデアが浮かんだんだよ。
読者	決まってるじゃないよ。ぼくは、よく分からなかったな。なんで逃げるのを止めたのか、どんな気持ちで手を引っ張ったのか、書き足した方がいいんじゃない。
作者	たしかに。メモしておこう。
読者	あと、大きいへびって、このくらい？それともこれくらい？
作者	もっともっと大きいイメージ。だって、木と木の間でからまっちゃうんだから。
読者	そうなんだ。読む人によって「大きい」ってちがう気がするな。
作者	例えば、「本町小のろうかよりも長い」なんてどう？
読者	みんなで算数で長さを測ったことあるから、分かるんじゃない。
作者	たしかに。その方が、みんなへびの大きさを想像しやすそうだよ。
読者	それじゃあ、不気味な感じのへびにしたいから、色は「むらさき色」で、「体をくねらせて追いかけてくる」なんてどう？
作者	あ、それいいね！読んでいてこわい感じがして、ドキドキする。
読者	じゃあ、今度はぼくの番ね。ぼくの話は、くしゃみの止まらない火の鳥の話なの。

三) ワークシート (振り返り、取材、物語、記述、感想シート)

たから島の地図から始まる私のぼうけん

たから島の地図

えらんで物語を書こう
がったわる言葉を

三年 組

名前 (

)

たから島の地図から始まる私のぼうけん

がったわる言葉をえらんで物語を書こう

三年 組 名前 ()

★この学習で できるようになりたいこと、がんばりたいこと

★学習計画

時	一	二	三	四	五
やること	<ul style="list-style-type: none"> ・たから島で起こる出来事、登場人物にやたからについてそうぞうする。 ・学習計画をたしかめる。 ・自分の□を決める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・出来事や事けんを考え、ふせんに書く。 ・地図の上で、友達とやり取りして内容を考える。 ・どの道順でどんな事件が起こるか選んで、物語シートにまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作った物語シートを友達と見ながら、内容をたしかめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ふせんを元に、文章を書く。 ・書き表し方のくふうを見つめる。 ・作品を自分で読み返し、チェックしたり、よりよくしたりする。 ・友達と読み合い、いいところを伝え合ったり、よりよくしたりする。 ・お話会の練習をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・がんばること、めあて
◎○△	<ul style="list-style-type: none"> これからどんな学習をするかわかった。 物語の出来事や登場人物について考えた。 	<ul style="list-style-type: none"> どんな事件が起こるか、紙人形で友達とやりとりして考えた。 文例を読んで、物語を書く時のポイントを見つけた。 	<ul style="list-style-type: none"> どの道順で、どんな事けんが起こるか内容を決めた。 物語シートを友達と見て、内容やつながりをたしかめた。 	<ul style="list-style-type: none"> 登場人物の行動や気持ちの理由を書いた。 出来事が目にかぶように書いた。(色、形、音、場面の様子) 登場人物の気持ちを書いた。(会話文、行動、表じよう) 自分で読み返したり、友達と読み合ったりして、いいところを見つけた。 	◎○△
この時間にできたこと、気をつけたこと、次時やりたいこと					

★かんせいしたら 友だちや お家の人に 読んでもらって、感想を聞いてみましょう。

★四年生へのお話をします。音読したり、地図上で紙人形を動かしたりして、練習しましょう。

取材シート

三年 () (組 名前)

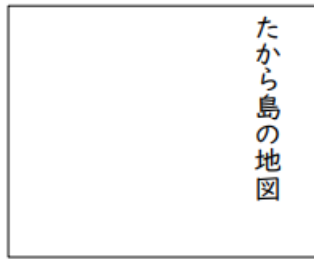
★どんな出来事や事けんが起こるか、そうぞうしたことを ふせんに書こう。

たから島の地図

物語シート

三年（ ）組 名前（ ）

★どの道順で、どんな事けんが起こるか 中心とつながりに気をつけて ふせんをならべよう



おわり	中2（じけん2）	中1（じけん1）	はじめ

5) 児童作品 1

てしまった。朝目をさますとリコのがたはなくスーパーマーケットは

幻の野菜のところにいた。

宝はどこでもドアだった。がもう夜だった。おむちまで三人はお

水の上でつづ。

まであるた。近くにあるかぎをつかてたからばこをあけた。

山のところでぴたりと止まれた。白くまのところから、宝がある方

りきったしゃんかん、氷の上でみんなたすべてしまった。だが、いいことは、火

に強いお母さんたちから私たちを守ってくれられた。でも、守

のところはいた。あたしたちはいかしてきた。でも、そこは寒さ

があった。がそこは近くにある船でいる。歩いてると白くま

水の中

すぐにはおしてしまった。だがすすんでいるときれいている道

いるひまはない。近くには氷がいてるのだ。でもリコはなれている。

理由が氷玉まのま

ニゴウらしい。どつやらあんない人みたいだ。でもゆくりして

目をさますと、人は人かいた。その人の名前は「リコ」と

目の前

カゴに入れたしゃんかん宝島の二人は行ってしまった。

はとでもあまいさつまいもで家へみんなと食べようと田んこ

どなたかに入れたかの理由だわ

スーパーマーケットには幻の野菜がおいてあった。幻の野菜

ある日、お母さんと私はスーパーマーケットに出かけた。

②言葉をくわえる、言葉をかえる

①本文

お母さんと私の大ぼう

三年

きんじつシート

キャラクター

三年

②言葉をくわえる、言葉をかえる

①本文

まよりのつたぞのしま

ふ、おにのつていたな、その四人

かまきりおなまのしまいままよつてまいおいた。

どうにかしころのしまおなまのしま。

よしっころにはたからがあるようた。

たうきくさがしをみよう。

そして四人はたからをさがすことになりました。

まよりのつたぞのしまいままよつてまいおいた。

よしっころにはたからがあるようた。

たうきくさがしをみよう。

そして四人はたからをさがすことになりました。

まよりのつたぞのしまいままよつてまいおいた。

よしっころにはたからがあるようた。

たうきくさがしをみよう。

そして四人はたからをさがすことになりました。

まよりのつたぞのしまいままよつてまいおいた。

よしっころにはたからがあるようた。

→このつたぞも入りました。おなまのしまは...

おかり

お2

お4

ははめ